

第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

カテゴリー	ランチョンセミナー 一般演題口演(優秀演題)
タイトル	訪問歯科衛生指導に取り組む歯科衛生士養成の試み
日時	平成 25 年 3 月 31 日 12 : 10~12 : 20
会場	第 6 会議室
座長	大幸砂田橋クリニック 前田憲志先生
演者	あおぞら診療所 山口 朱見先生
企画趣旨	<p>平成 23 年度より当院で在宅医療連携拠点事業の一環として取り組んでいる医科歯科連携をすすめる中で、歯科診療や口腔ケアを必要とする在宅患者が数多く存在することが把握された。中でも、セルフケア不足に基づく口腔衛生不良や摂食嚥下障害、さらには終末期における口腔内の苦痛など口腔ケアのニーズが特に高いことから、訪問歯科衛生指導に従事できる歯科衛生士（以下 DH）の人材確保・育成が今後重要になるものと考えられる。しかしながら在宅患者の場合、要介護状態に陥った主たる疾病や様々な合併症の併発、かなりの高頻度で認知機能障害を有すること、家族ごとに異なる様々な意向、考慮すべき経済事情など、多様な背景や個別性を有している場合が多く、歯科医院での勤務経験だけでは在宅患者に適切なケアを提供することは難しい。一方、在宅のみならずグループホーム（以下 GH）入居者の口腔内の衛生状態も大半が不良な状態にあることが昨年の活動の中で把握された。そこで今回、GH 入居者に対して一定期間口腔ケア介入を提供する形による訪問 DH 養成の取り組みを行った。</p> <p>【方法】</p> <p>2012 年 7 月から 9 月まで、同意を得た GH で週 2 回、DH9 名のうち 2~3 名ずつが介入し口腔ケア（口腔清掃、声掛けによる口腔周囲の運動、口腔内外のマッサージなど）を入居者 1 名につき 20 分程度行った。1 名の DH が中心となり入居者とコミュニケーションをとり口腔ケアを行い、他の DH がそれをサポートする形でお互いの手技の確認をしながら行った。また具体的な介助磨きの方法をスタッフへ理解しやすいよう指導する経験を積んだ。</p> <p>施設介護職の介助磨きによる患者の口腔内状態の改善がみられ、DH が関与し指導を行うことで適切な口腔ケア手技が伝達できた。</p> <p>【結果・考察】</p> <p>複数の DH が同時に GH での口腔ケアに従事する活動を通して、DH 間での手技の統一や技術向上を図ることができた。また、これまで認知症や重度の障害を有する患者の口腔ケアを経験したことがない DH が半数を占めたが、今回の活動によって認知症者への適切な対応方法、（全身疾患など）主疾病や合併症への理解を深めることができた。さらに、在宅患者の場合には（療養環境によ</p>

第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

りさまざま条件が異なる) 家族が指導対象となることから、GH 介護職に対する口腔ケアの手技指導経験は難易度上その前段階として位置づけうると考えられる。訪問歯科衛生指導を行う DH を育成することは急務であり、質の高い研修の場が多く設けられる必要がある。今回の取り組みは研修方法として有意義であると考えられた。